

# 水道の凍結にご注意を

## 水道を凍結させないために

12月から2月にかけて、水道の凍結事故が多発します。水道が凍結すると、水が出なくなるだけでなく、修理に多くの費用がかかります。凍結防止には「水抜き栓」による水道管の水抜きが効果的です。



### こんな時は注意!

- 外気温がマイナス4℃以下になるとき。
- 旅行などで家を留守にするなど水道を使用しないとき。
- 一日中外気温が氷点下の「真冬日」が続くとき。

## 水抜きのしかた

水抜き栓(白いハンドルまたはレバー)による水抜きの手順



ハンドル式水抜き栓



レバー式水抜き栓

### 水を抜くとき

- ① 蛇口B・Cを閉める。
- ② 水抜きハンドルDを右に止まるまで回す。(レバーの場合は“止”の方向に操作する。)
- ③ 蛇口B・Cをいっばいに開ける。
- ④ 空気入れ蛇口Aがある場合、これもいっばいに開ける。
- ⑤ 蛇口B・Cより水が完全に出なくなったのを確認してから蛇口と空気入れ蛇口A～Cを閉める。

### 水を出すとき

- ① 蛇口と空気入れ蛇口A～Cが閉まっていることを確認する。
- ② 水抜きハンドルDを左に止まるまで回す。(レバーの場合は“出”の方向に操作する。)
- ③ 蛇口B・Cをゆっくりと開ける。

### 水洗トイレの水抜き

- ① 水抜きのハンドルを右に止まるまで回す。(レバーの場合は“止”の方向に操作する。)
- ② タンクにある排水ハンドルを“大”の方向へ回し、タンクの中を空にする。(空にしないと水は落ちません。)
- ③ 便器内に不凍液を入れる、または、くみ出す。



### 注意

- 空気入れ蛇口があるときは、この開け閉めを絶対に忘れないよう注意してください。なお、湯沸かし器なども、その取扱方法に基づき水を抜いてください。
- 蛇口B・Cを開けるときに水道管内に溜まっている空気によって、蛇口から水が噴出することがありますので、ゆっくりと開けてください。
- ハンドルの開け閉めが不完全ですと、水が完全に抜かず、凍結や破裂の原因になります。また、便器内などの排水の凍結にも注意しましょう。
- 水抜き栓は冬になる前に点検しましょう。
- ハンドルまたはレバーが動かない時はお近くの指定給水装置工事業者に修理をお申し込みください。

## もし凍結してしまったら

### 凍結した水道の修理

#### 軽い凍結の修理

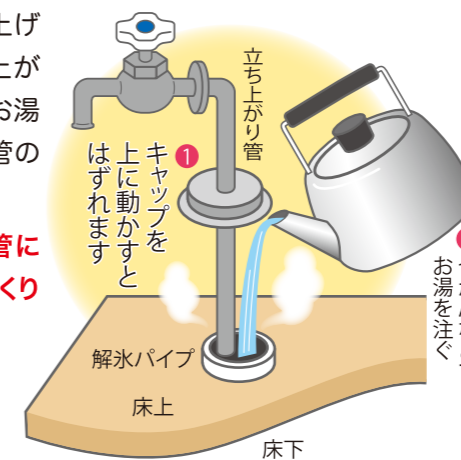
露出している管(保温筒などは取りはずす。)や、蛇口などにタオルを巻き付け、その上からお湯をゆっくりかけると、水が出るようになります。



#### 解氷パイプが取り付けられているとき

キャップを上を持ち上げて取りはずし、立ち上がり管に右図のようにお湯を注ぐと床下にある管の解氷ができます。

お湯は、立ち上がり管につたわるように、ゆっくり注いでください。



### 注意

- 解氷のため、蛇口などに直接お湯をかけたり、直火を当てたりしますと、破裂や火災の危険があります。

熱湯はダメ!!



あぶない!



### それでも水が出ない時は

お近くの指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。なお、ご不明なときは水道局電話受付センター(17ページ参照)またはお住まいの区を担当する配水管理課(18ページ参照)にお問い合わせください。



### 凍結修理の費用は

凍結修理などの費用は、所有者(使用者)の皆さまの自己負担となります。また、修理の作業時間や修理に使った材料などによって費用は異なります。工事を依頼する前に工事内容や費用などについて、お問い合わせされた指定給水装置工事業者から説明を受けてください。また、できるだけ複数の事業者から見積りを取るなどして内容を確認し、十分納得いただいてから工事を依頼してください。

見積り・出張費等が有料となる場合もありますので、事前にご確認ください。